

われわれの未来へ（第8回）

小野 晴巳(地球冒険学校準備会顧問)



この原稿を書いているのは8月下旬ですから、皆様のお手元には9月になり、時期がずれま
す。従ってこの文章の私の意見は8月現在までの事とご承知ください。

今夏は特に暑く猛暑日を連日更新しています。さらに、コロナ過です。私の日常生活はめちゃ
くちゃです。ワクチン4回接種後は、感染症似の倦怠感がしばらく続き、酒もあまり美味しく
ありません。後期高齢者の知人は、自宅で脱水症にかかり2週間自宅療養し、今も調子悪いとの
報告をうけました。クーラーと水分補給は十分気を付けていたのに原因がわからないとボヤいて
いました。

そんな中でも私は早朝最歩を時々しました。多摩湖畔の自転車周遊道路をのんびり歩くだけ
です。それで気が付いたのが「ナラ枯れ」です。多摩湖は水道水のための湖ですから、柵で囲われ
ていて人は入れません。そのため柵内は昔ながらの武蔵野の樹木を保っています。それが茶色の
大木が点々としてまるで紅葉のようです。「ナラの木」が病害虫で枯れて無惨な姿を晒していま
す。

昔は松の木が豊富だったのに、今は「松枯れ病」でこの多摩湖周辺では絶滅してしまいま
した。ナラの木も松の木と同じ運命になるのでしょうか。

1、過去から学ぶ難しさーアジア・太平洋戦争 インパール作戦(5)

この題で何回か書いていますが、いつも気にしています。会報にふさわしくない、独りよがりの
内容等です。それでもこれまで書かせていただき感謝しています。

八王子東養護時代の同僚だった安藤教諭(旧姓矢代)からノートが届きました。なんと安藤さんが
大学時代に受けた家永三郎教授の講義「太平洋戦争」の手書きノート
でした。これは超貴重な資料です。家永三郎教授は「教科書裁判」な
どで有名ですが、私の大学生時代から気鋭の学者として論壇をリード
されていた人でした。今の若い人は分かりませんが、教育・歴史・社
会等に関心ある方ならだれでも知っている著名人です。

安藤さんからは「この項を読んでいて、役に立つなら使ってください
」とのことでしたので、早速利用させていただきます。少しでも戦
争を繰り返さないために書いている私にとって、励ましになる資料を
いただきお札と共にさらに頑張りたい。



さて、終戦後77年ということで今年も「第二次世界大戦」「太平洋戦争」関連の本の出版、放
映が多数なされました。そのなかから8月15日(月)夜10時NHKの「ビルマー絶望の戦場」を紹
介します。

内容は私が今まで書いてきたような事ですが、改めて放送で当事者の証言を聞くと、怒りがこ
み上げてきます。

<イギリス軍司令官の証言>

「日本軍の根本的な欠点は道徳心がないことです」「間違っていることを認めないこと」

「日本軍の敗北は疑う予知がないのに日本軍の将校は勝ち戦にこだわった」

<ビルマ人(ミャンマー人)の証言>

「日本人の指導者は恐ろしかった。すぐピンタするのでいつも教官をみていた」

これは日本軍が占領しビルマの独立を約束し、アウンサンー将軍もこれに賛同し、日本語教育などを行い、友好関係を保っていた時の日本軍と日本人への感想です。

「イギリスの飛行機の攻撃と日本軍の戦闘に巻き込まれて、我々はどこに逃げればいいのか」

「日本の紙幣は使えず、価値もなく生活は困窮の極みだった」

日本軍は敗走しながらイギリス軍と最後の戦闘を続けていた時のビルマ人の立場であり、また、アウンサンー将軍は日本国の「大東亜共栄圏」の名目と日本軍の「日本人第一主義の横暴」に幻滅し、反日闘争をイギリス軍と一緒に戦っている末期の時期の証言になります。これらの証言は日本軍と日本人が戦時中に行った残虐行為のほんの一部です。他にも書くことが憚れる行為が沢山あります。「戦争だから仕方がない」で済まされることではありません。

<日本人の証言>

○前線の若手下士官「武器もないのに司令部は防衛を命じてくる。目的がわからない。撤退作戦ほど怖く大変なのを知っていて精神論で押し付けてくる」

○現地の日本人芸者「前線の兵士はボロボロで撤退してくるのに、司令部の将校は毎晩遊びにきていた」

○現地大手銀行員「軍は民間人に首都ラングーンを死守すべしと命令したが、肝心の軍人は撤退していて啞然とした。」

○若手前線将校「ラングーン死守を命じられたが、武器も食糧もなく、守る手段もなく、さらに司令部は撤退していて、なにを命令するのかと怒り心頭になった。」

日本軍のビルマ占領は絶望的になり、イギリス軍によりビルマ全土から追い落とされようとしている時期の証言です。司令部はそれでも前線軍隊と民間人にも戦いを厳命していました。そのくせ自分たち日本軍上層部は保身に走っていました。

インパール作戦の発案者・実行者の牟田口司令官などは、早々と東京に戻り陸軍大学校の校長で終戦を迎えている事等です。本土防衛・国体維持のため沖縄島民に自決を命じた司令官、一億総玉砕を計画した大本営統合本部、満州から民間人を置き去りにして撤退した関東軍など、実例はいくらでもあります。日本軍は国民を守るより軍隊を守る存在であったと後世評価されることになります。「施政者は傷つかず、人を駒のように動かす」

このような事実から我々は何を学ぶのだろうか。あの時代は間違った特殊な時代で現在の民主主義の日本では起こりえないと考えているならば、過去から学んでいるとはいえないと思います。

2、現在の息苦しさ

私の8月は「墓参り」と「戦争」の月になります。

まず何と言っても「墓参り」は欠かせません。コロナのため今年は3年振りの帰省ですが本当に久しぶりの感覚でした。兄は高齢化し、農業は後継者もなく委託耕作でかろうじて雑草化を防いでいると淋しそうにっていました。兄の子供は全て他家へ嫁いでいて「墓守の問題」や「農業・農地の処理問題」など課題としてありました。私の立場は大学進学を認めてもらった条件と

して相続などは放棄していますので黙って見ているだけです。でも、故郷は心身ともにリフレッシュさせてくれる場所で「ふるさとは今もなつかしく、遠くにありて思うもの」はいつまでも変わらないのです。

次は「戦争関連です」

原爆、終戦記念日(敗戦記念日)の8月になります。原爆といえば「ヒロシマ、ナガサキ」になりますが、私のイメージではどうしてもヒロシマが先になり、ナガサキは後になります。そこで今回はナガサキを重点的に勉強しました。8月8日の長崎の平和祈念式典では少年・少女の挨拶に感激し、首相挨拶のなかで核兵器のない世界を言いながらも核兵器禁止条約に最後まで触れなかったことに違和感を抱きました。

そして8月20日(土)「第18回東大和市平和市民のつどい」に午後二時から参加しました。

この式典も3年ぶりの開催です。会場の都立東大和南公園内に戦災建造物「旧日立航空機KK変電所」があります。この変電所の歴史を紹介した単行本「戦災変電所の奇跡」には、こんなキャッチコピーが添付されています。「西の原爆ドーム、東の変電所」。

立川工場として現在の西武線東大和市駅から玉川上水駅の幅から新青梅街道までの敷地で飛行機を作っていました。これは中島飛行機武蔵野工場に匹敵する規模です。工場内には病院・映画館・青年学校・職員工員住宅などあり、関連人口は1万2千人も居住していた。空襲で犠牲者111名、負傷者多数の莫大な損害で駅方面からは焼け野原です。

唯一残ったのがこの「変電所」と

「給水塔」でした。給水塔は取り壊されて、今はありません。

変電所には弾丸の跡が外壁、室内の階段や機械に無数に残り、空襲の凄まじさを伝えています。老朽化して

存続の危機を迎えましたが、市の援助と市民活動による運動で改修・保存され、週2回公開されるまでになりました。

「変電所」のある公園内の「平和広場」で国立音楽大学の演奏、都立上水高校放送部の「戦争と平和」の朗読、市少年少安合唱団による「世界がひとつになるまで」などステージがあり、夜の平和祈念キャンドル点灯で終了しました。

ウクライナ侵略で国内では軍事力増強とか防衛費増額などの論戦が活発化していますが、くれぐれも「戦争への道」にならないようお願いしたい。若い人の力強い平和活動への参加および宣言を聞き「教え子を二度と戦場に送るな」の言葉を思い出しました。



3、未来の希望は教育から一日本の教育(2)

教員の現在値(第2回)～部活を考える

学校生活の中で、部活はほとんどの人が経験していると思います。ひとつの部活に集中した人や、沢山の部活を経験した人など様々でしょう。

私は後者になります。恥ずかしながら書いてみます。(中学から大学まで)卓球部、山岳部、郷土研究部、文芸部です。期間は1年から2年位で時代が時代ですから、全て自由に入部退部がで

きました。強制は全くなく自分の意志次第でした、ものになったのはどの部活もありません、正直書くことさえ恥ずかしいです。

教員時代での部活顧問(部長)は新聞部とバトミントン部でした。(菜高校教員時代の4年間で)これも名前だけで専門教員とコーチに任せで指導はしませんでした。はっきりいえば指導できません。それでも当時は当たり前で、誰も何処からも苦情文句を言う人はいませんでした、しかし、今の部活は生徒や教員の心身にかかる負担は本当にひどい。

勿論野球やサッカーなどの体育系や英語部や科学部などの文科系各部で「生き生きと活動し、人生の道を拓いてくれたのは部活だった」という人は多く、美談や感動をあたえてくれるのも部活の良さです。

「望まし集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、、、、、、(略)、、、、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う(中学生の学習指導要領特別活動の目標)」とあります。さらに、高校生の目標に一言で言えば「自主性」「自発性」などが加わります。素晴らしい目標です。それにもかかわらずなぜ生徒や教員からも悲鳴が聞こえてくるのでしょうか

「今まで好きなように部員同士で練習メニューや計画していたが、顧問が変わり勝つための練習になり、とても苦しくなって半分辞めた」

「少数化のため部が無くなり、合併させられた。選択肢がない」

「道具代、交通費、食糧費などで家庭負担があり言い出せない」など生徒側の意見

「土休日活動、放課後指導、など勤務負担」

「部活動中や試合での事故対応が大変、弁償、生徒のメンタルケア、自身の心身不調など」の教員側の意見

さらに、家庭から、地域から、教育委員会から提言、苦情、意見などがあります。

これを受けて、国は中学の運動部の活動を地域に移行することなどの提言をまとめました。2023～2025年を「改革集中期間」として、中学の部活の休日の指導を民間クラブに委託する、というものです。

文化部活動も地域に移行することを検討中です(休日のみ)。

改革の第一歩としては、遅まきながら評価したい。ただし、問題はまだまだあり、これで生徒の要望の解決にはならず、教師の負担軽減にもなりません。これからです。

ここまで書いていたら、こんな判決が報道されました。(8月26日付)

「教員の無給残業は正しい。払う必要はない」東京高裁判決
理由～「教員は残業代を払わない代わりに月給の4%を払う教職員給与特別措置法があるから」として残業代は払わないという趣旨です。

原告人は小学校の教員で「月60時間の残業代を求めている」

この判決を国民はどのように受け止めるか聞きたいですね。

参考までに私の計算です。たとえば月給40万円、その4%は1万6千円です。

パートの時間給1千円として16時間分の賃金です。4日分です(一日4時間として)このたとえを参考に考えてみてください。

今回も課題で終わりますが、このような事を自由に意見交換できる社会・日本になってほしいです。